

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月10日提出

所属	職名	氏名
文学部	教授	駒木 敏
研究題目	古代日本における韻文の表現	
研究成果の概要	<p>今年度は、古代歌謡の具体的位相について、『古事記』の歌謡を基本的な問題点から整理しなおしてみた。</p> <p>前年度に考えた、ある種のウタの終止詞形（音数律）を手がかりとする歌謡の文字化に関わるあり方を、長歌形と短歌形に即して確認する必要があるからである。</p> <p>また、終止詞形の機能は、複数の歌謡を連続して歌う場合の反復や繰返しの行為とも深く関係する側面がある。固有の歌曲名を付与されて複数の歌群から構成される幾つかのウタに即して、この課題を整理すべく、目下調査中である。</p> <p>なお、上に関連して、『思想史辞典』の項目として、〈万葉集〉の項を執筆した（未刊）。</p> <p>また、呼称詞や人称詞に関する表現の、歌謡・和歌におけるあり方についても継続して調査中である。</p>	